

海岸林再生プロジェクト10カ年計画

特集

植栽3年目に思う

～元新聞記者の目で見るプロジェクト～

プロジェクト開始から6年目を迎え、クロマツの成長とともに地域住民の意識にも変化が見られるようになっている。スタート当初は海に行くことを躊躇していたという被災住民、高校生や大学生の中にもボランティア活動日に足を運んでくれる人が増えた。日経新聞論説委員時代から名取市に通い、プロジェクトを“観察”してきた小林省太氏が現場の今を語る。



2014-15年植栽地26ha全景



上／植樹祭に参加する地元の高校生
下／キツネやタヌキに見つかれないようクロマツの根元に隠すように鳥がタマゴを産む。多様な生物を育む森としても重要な役割を果たす海岸林

収支報告

調査事業に「将来ビジョン形成調査」を加え、全国各地の海岸林の好事例を調査。プロジェクト地における将来のあるべき海岸林とその管理の在り方を探っている。

単位：円

項目	内 容	2015年度	累計(2011年～)
収入	募金・寄附金など	一般寄附金など	96,764,711 402,045,086
	民間助成金	三井物産環境基金、国土緑化推進機構、全日本社会貢献団体機関など	4,260,000 39,721,360
	前期繰越金		54,310,510 —
	合計		155,335,221 441,766,446
支出	育苗事業	「名取市海岸林再生の会」への育苗事業委託、資機材購入、技術習得・研修実施等	18,095,622 108,921,377
	造林・育林事業	宮城中央森林組合への植栽・施肥・下刈り・除伐委託等	27,325,922 48,104,809
	調査事業	モニタリング調査、将来ビジョン形成調査、名取市海岸林史聞き取り調査等	1,151,516 8,841,881
	啓発普及事業	現地視察会・シンポジウム・活動報告会開催、支援者コミュニケーション等	11,100,331 52,097,434
	支出総額		57,673,391 217,965,501
	次期繰越金		49,308,161 49,308,161
	特定費用準備資金※	2033年までの長期育林費用として	48,353,669 174,492,784
	合計		155,335,221 441,766,446

※公益法人が、実施期間や内容などが明確な事業に対し、将来の計画的な実施のために積み立てる資金のこと。内閣府に提出した計画に基づいて積み立てられます。

2015年度実績

植栽済みの面積が年々増えることで下刈りなどの管理作業量も増えていく中、全国からのボランティアの皆さんの丁寧な仕事がクロマツの健全な育成を支えている。

	内 容	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	累計
育苗	クロマツなど播種数	—	97,500	72,500	87,250	89,856	347,106粒
植栽	植栽面積	—	—	—	15.67	9.82	25.49ha
	植栽本数	—	—	—	80,182	51,234	131,416本
雇用	育苗・造林・育林における雇用数	—	187	658	1,402	1,206	3,453人
市民参加	現場ボランティア数	—	—	262	1,365	1,691	3,318人
	現場視察者数	263	580	837	567	577	2,824人
	活動報告会参加者数	523	4,772	5,900	4,692	4,996	20,883人
	活動報告会開催数	4	43	28	30	30	135回
メディア	国内新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど紹介回数	24	39	27	33	38	161回



プロジェクト担当者の身長(183cm)を追い抜き、大きく成長している苗も

新しい小学校ができると、まず1年生が入ってくる。毎年おちびちゃんが入学してきて、3年たつと1年生から3年生まで揃う——宮城県名取市の海岸林再生の現場を見ると、そんなふうに思うことがあります。

植栽は2014年に始まり、植えられたクロマツは今年分まで含めて37ha・19万本になりました。苗は強風や乾燥、暑さ寒さにさらされながら、「月面」にも例えられる悪条件の土に根を張つて、これまでほとんど枯れることもなく成長しています。

植える苗は平均30cmほどですが、一昨年植えられた3年生の中には2mに届く勢いで成長した健健康児もいます。もちろんなかなか大きくならないものもあって、それはちょっとした環境の違いによるのです。人間の背丈がさまざまとの同じように、クロマツの個性であるのかも知れません。

オイスカが関わる100ha全体に50万本の苗を植え終わるまでにおそらくあと4年、その時には6年生から1年生までが揃うことになります。

子どもに手がかかるのはマツも人も変わりません。今年の5月に行われた植樹祭には地元の大学生や高校生が数多く参加しました。若い世代がずっと見守ってくれることがクロマツの成長には欠かせません。その意味で、今後につながる頼もしいう出来事です。

大きくなってしまえば数年の生まれの差など関係なくなります。そうなつて初めて、海岸林は再生されたことになる——この「小学校」を目にしながら、これから長い年月に思いを馳せてています。

※毎日ブログ更新中
アドバイザー
小林省太(元日経新聞論説委員)
小林省太のブログは「省太のつぶやき」
でご覧いただけます。